

編集後記

今号の冒頭は、新たな物性研基金を開始したご案内です。物性研における基金自体は、記事の中でも紹介しているように、約1年前に量子物質ナノ構造ラボで開始しております（物性研だより第63巻1号）。物性研でも（？）基金を設立するのは、昨今の大学を取り巻く大きな流れの中であることは違いないですが、これを機会に「物性愛」を育みたいとの所長の思いが綴られています。是非、ご協力頂き「周期表銘板」にお名前を。

研究紹介の1件目は、このところ常連となりつつある眞弓先生のゲルの成果ですが、電解質膜としての性能に着目された研究です。その後は、期せずして、スピン波・マグノンの記事が並びました。どちらも磁場により制御やチューニングを行う研究ですが、益田先生は量子磁性体において、大谷先生はトランスデューサーを作り込んで、スピン波とフォノンの強結合を初めて実現させたもので、PRLのEditors' Suggestionにもなっています。研究紹介の最後は、昨年度着任された林先生の、モータータンパク質の物性評価についての成果です。機能物性研究グループが設置されてから8年が経ちますが、生きている生物の研究が物性研だよりに掲載されるのは初めてだと思います。

その他に、昨年度の外国人客員を含めた6名の客員所員の活動紹介の記事があります。様々な分野から研究者が共同研究に来て頂いており、共同利用研としてのアクティビティにもご協力を頂いることは、この時期に報告書をまとめる立場としてはいつも感謝しております。

鈴木博之

物性研だよりの購読について

物性研だより発行のメール連絡を希望される方は共同利用係まで連絡願います。

また、物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

記

1. 送付先住所変更（勤務先⇔自宅等）
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正（誤字脱字等）
4. 配信停止
5. 送付冊数変更（機関送付分）
6. メール配信への変更

変更連絡先：東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール：issp-kyodo@issp.u-tokyo.ac.jp